

水俣の奇病で一人死ぬ

熊大医学陣、現地へ

“驚くべき生活環境”

水俣市月ノ浦部落に発生した奇病、落を視察するべく、熊大医学陣、熊大内科学部第一内科徳病院で細川院長と意見交換し、一行は八日水俣へゆき、月ノ浦部

熊大内科では先月二十五日水俣

市における第二回研究会のあと、同市日浜の隔離病棟に収容中の重症患者六人を熊大病院に収容、内科的、小児科的考察を行つて

きたが今月初め患者のうち二人が死亡、臨床的考察を行つたに研究が出来ないため、現地の環境など調査、さらに患者の状況をみることになったもの。

一行は月ノ浦部落を訪れ、現在罹病の二十六歳と十五歳の女児患者、二歳の男児患者を診察、患者の状態を十六ミリフィルムにおさめた。午後は新日窒付属病院を訪れ、一行の診察を待っていた六人の患者を診察、言語障害などを録音した。▽熊大助教授、病源体がないのであるかはまた時間がかかると、わかれは内科的臨床像の全貌をつかいたため現地を視察にきたわけだ。驚いたのは現地の生活環境だ。脳疾患であることは間違いないと思つて、

奇病患者を診察する岡島熊大内科講師(新日窒付属病院で)

